

一般社団法人日本医療薬学会 第 98 回医療薬学公開シンポジウム開催報告書

第 98 回医療薬学公開シンポジウム

実行委員長 岩本卓也

(三重大学医学部附属病院薬剤部 教授・部長)

2025 年 8 月 23 日（土）、三重大学医学部 臨床第 2 講義室において、第 98 回医療薬学公開シンポジウムを対面形式で開催いたしました（主催：日本医療薬学会）。参加者は 57 名（病院薬剤師 41 名、薬局薬剤師 7 名、大学教員 3 名、その他 6 名）でした。本シンポジウムのメインテーマは「チーム医療を支える薬剤師の活躍とエビデンス構築」とし、そのもとで特別講演およびシンポジウムを企画いたしました。

和歌山県立医科大学薬学部 社会・薬局薬学研究室 教授 岡田 浩先生による特別講演では、薬剤師が主体となって医療現場でエビデンスを構築する意義について解説がありました。具体例として、地域薬局で実施された「COMPASS プロジェクト」が紹介されました。2 型糖尿病患者に対して薬局における短時間の生活習慣改善支援を実施し、薬剤師の介入によって HbA1c の改善が確認されました。また、高血圧患者を対象とした臨床試験（COMPASS-BP）では、減塩指導による血圧改善効果が示されました。このように薬剤師の介入が患者アウトカムに大きな影響を与えることが明らかとなり、高齢化社会を地域で支える上での薬剤師の重要な役割が強調されました。さらに、患者指導では、間食の消費に必要な歩行時間や、1 日 1g の減塩による血圧低下（約 1mmHg）などの定量的指標をパンフレットに記載することで、患者の治療参加意欲が向上することも紹介されました。加えて、高齢者を多く抱える地域医療においては、地域でのソーシャルキャピタル構築が不可欠であり、患者の良き相談相手・医療支援者として薬剤師の活躍が一層求められることも示されました。

シンポジウムでは「各領域における専門性を生かした介入と実践例」をテーマに、以下の 4 題の講演が行われました。

- ・ がん領域：「がん領域における専門性を生かした薬物治療への貢献」
名古屋大学医学部附属病院 薬剤部 宮崎 雅之先生
- ・ 循環器・腎臓領域：「臨床現場に根ざすシームレスな学術活動のすすめ ～循環器・腎臓領域の視点から～」
医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院 薬剤部 木下 照常先生
- ・ 集中治療・感染領域：「集中治療・感染領域における Clinical Question 解決に向けた実践例」
鈴鹿医療科学大学 薬学部 医薬品情報学研究室 榎屋 友幸先生
- ・ 地域医療（薬薬連携）領域：「地域における多職種連携を通じた慢性腎臓病患者への栄養指導の実践」
三重大学医学部附属病院 薬剤部 朝居 祐貴先生

それぞれの講演では、日常業務から派生したクリニカルクエスチョンを構造化して臨床研究を行い、エビデンスを構築するプロセスと成果が紹介されました。総合討論では、臨床研究を推進するためには、論理的思考力や定量的評価の視点に加え、他職種・他施設との連携や信頼関係の構築が重要であることが共通の認識として示されました。さらに、薬局薬剤師が臨床研究に積極的に取り組むために必要なスキルについて質問があり、参加者の関心の高さもうかがえました。本シンポジウムが参加者の意識変容を促す契機となったと感じられました。

最後になりましたが、本公開シンポジウムの開催にあたり、特別講演およびシンポジウムをご担当いただいた演者の先生方、企画・運営にご尽力いただきました三重大学医学部附属病院薬剤部のスタッフ、日本医療薬学会事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。